

# 職業体験 ～オホーツクの恵みと職業を再発見～

## ■ 事業のねらい

オホーツク圏の豊かな自然環境の中で、職業体験を通じて望ましい職業観を身に付けるとともに、学ぶことや働くことへの理解を深める。



- 実施日 平成23年9月17日(土)～19日(月) 2泊3日
- 参加対象 小学4年～中学生 20名
- 参加実績 参加者：13名  
 小5＝8名、小6＝4名、中2＝1名  
 男子＝2名、女子＝11名  
 運営協力者：1名  
 北見工業大学学生1名  
 外部指導者：6名  
 漁業指導者2名、酪農指導者4名、  
 陶芸指導者2名
- 備考 活動場所：常呂少年自然の家 北見市常呂町内

## 1 事業実施の背景

少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等が進む中、子どもの進路をめぐる環境は大きく変化し、不労の問題など大きな課題がある。また、子どもたちをめぐる課題として、勤労観・職業観の未熟さや、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力の不十分さ、社会の一員としての意識の希薄さなども指摘されている。

このような状況を踏まえ、本事業では職業の体験や、勤労者とのふれあいをとおして、協力・共同して取り組む中で、学ぶこと・働くことの意義や、社会の役割や仕組みについて理解を深め、子どもたちが将来、社会人、職業人として自立していくことができることをねらいとする。

## 2 プログラムデザイン

	7:30	9:00	11:00	12:00	13:00	15:00	16:00	18:00	19:00	22:00	
9/17(土) 1日目						受付	開会式	野外炊事	事前学習	入浴	就寝
18(日) 2日目	朝食 活動準備	職業体験 「漁業体験」	食品加工体験 「野焼きパン」生地編	昼食	食品加工体験 「生キャラメル」	食品加工体験 「野焼きパン」焼き編	職業体験 「酪農体験」	夕食	一日のふりかえり	入浴	就寝
19(月) 3日目	朝食 活動準備	職業体験 「陶芸の仕事体験」		昼食	閉会式	13:30 解散					

## ■ アクティビティについて



## ■ 意図

- 地元オホーツクの漁業・酪農等の職業体験や、その勤労者との交流をとおして、地域産業や職業への興味・関心を高める。
- 地域資源を活用した食品加工の体験を通して、付加価値への理解を深めるとともに、オホーツク圏域の豊かな自然や環境へ気付きを促す。

## ■ 留意事項

- 職業体験活動の安全確保に努めるとともに、参加者が自己の役割を明確化し、意欲が持てるよう、当日作業と事前学習の内容について、受入先指導者と事前打ち合わせをする。
- 参加者同士のコミュニケーションを図るため、多様な場面で交流する機会や、協力・共同して作業する機会を設けるようにする。

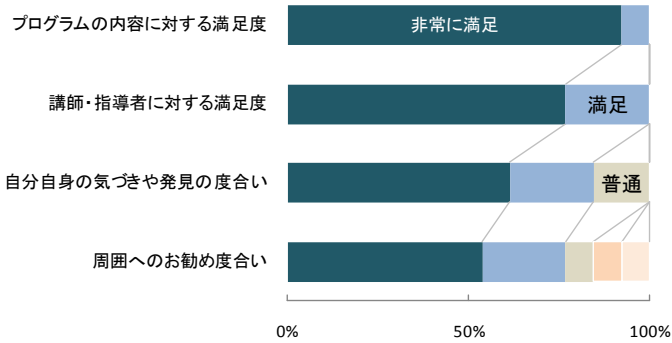
### 3 活動の様子

#### ■ 当日の様子

1日目、最初の活動「野外炊事」は、緊張をやわらげ交流を深める機会となった。事前学習では、翌日の「酪農体験」に向け、作業の役割や留意事項等を熱心に聞き、メモをとる意欲的な参加者も多く見られた。

2日目、「漁業体験」では、ホタテ（稚貝）の殻にドリルで穴をあけ、等間隔にロープへくくりつけていく作業を、最後まで積極的に取り組んだ。漁業指導者から激励と感謝の言葉をいただき、作業を最後まで果たした達成感を味わい、仲間と共感しあう様子うかがわれた。「酪農体験」では、牛舎清掃や餌やりなどに悪戦苦闘しながらも作業を経験した。「食品加工体験」では提供いただいた食材を使い、パンや生キャラメルづくりに取り組み、満足げな様子で地元オホーツクの味を堪能していた。

3日目、「陶芸の仕事体験」では、作品に仕上げるまで普段体験できない活動に戸惑いながらも、熱心に取り組んだ。



#### ■ 参加者の声（感想）

「ホタテを育てるには、色々な作業をしていることがわかった。」（小5）

「私たちが何気に飲んでいる牛乳は、こんなに苦勞をして作られていることにびっくりした。」（小6）

「漁業体験のホタテのひもを通す作業は達成感があった。毎日この仕事を続けているなんて凄いなと思った。」（中2）

「いろいろな職業を体験することができて勉強になった。」（小5）

「生キャラメルは、こんな少ない材料で、こんなおいしいものができてビックリした。」（小5）

### 4 事業評価

#### ■ 参加者の変容【IKR調査結果】

14の調査項目のうち、13項目がプラス値を示した。全体平均で0.29ポイントの向上がみられたが、最も向上した項目は「明朗性」の0.69ポイントであり、続いて「積極性」・「身体的耐性」が0.54ポイント。「日常的行動」が0.38ポイント。「自己規制」・「まじめ勤勉」・「思いやり」が0.35ポイントを示し、全体平均値よりも高い値を示した。反面「野外生活・技能」は-0.1ポイントであった。

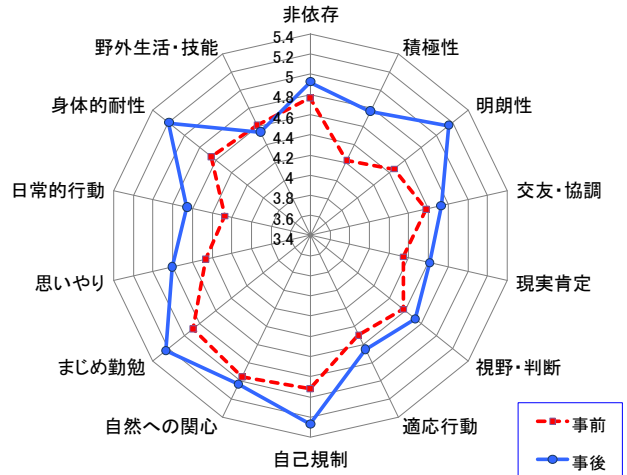


#### ■ 結果の分析・考察

「明朗性」の質問項目は「だれにでも話しかけることができる」「失敗しても立ち直るのがはやい」であることから、参加者は仲間や外部指導者の方々とコミュニケーションを図りながら他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、協力・共同して諸活動に取り組んだことによるものと推察する。

また「積極性」の質問項目の「自分からすすんで何でもやる」「前むきに物事を考えられる」からは、自らの意志でよりよい作業方法を考え、さらにその過程での課題や葛藤を克服するように努めていったと推察される。

今回得られたこれらの結果から、「人間関係形成能力」や「意思決定能力」など、勤労観・職業観の発達にかかわる諸能力が向上したと考察できる。



### 5 まとめ



#### ■ 成果

- 職業体験活動の他に、野外炊事や食品加工体験など、協同作業の活動を多く取り入れたことから、仲間を思いやる気持ちや勤労観・職業観を育てるための「自他との関わり方」について学ぶことができた。
- 酪農指導者による事前学習を設けたことで、生き物を扱う大切さや作業の役割を理解し、意欲向上につなげることができた。

#### ■ 課題・今後の方向性

- 第一次産業の職業体験活動は、天候等に大きく左右されることから、代替の体験活動の準備及び調整が必要である。
- 企業・工場等の職業体験活動を取り入れる場合、土日・祝日が休業日であることから、本事業の開催時期や曜日を検討する必要がある。
- 近年、初等中等教育段階では、発達段階やそれぞれの時期に応じた課題を達成していくためにも、「キャリア発達」を支援していくことが求められている。したがって、今後もこのような機会を設定することが必要であると考える。